

平成25年度（2013年度）
事業計画

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

平成25年3月

所 信

平成24(2012)年度におけるスポーツ界最大のイベントは、第30回オリンピック・ロンドン大会でありました。公益財団法人日本水泳連盟は、このロンドンを目標として“センターポールに日の丸を！”をスローガンに掲げ、関係者一丸となり目標達成に向って邁進致しました。その結果、日本競泳チーム「とびうおジャパン」は、銀メダル3個、銅メダル8個を獲得することができました。これらのメダル総数計11個はアメリカについて第2位となり、1932年ロスアンゼルス大会のメダル12個に次いで水泳史上第2位、戦後では最多のメダル獲得を実現することができ、多大な評価をいただきました。これらの成果は、代表選手27名全員が強固なチームワークを結成して戦うとともに、日本水泳界関係者の深いご理解と絶大なるご支援の賜物と衷心より感謝申し上げる次第であります。

しかしながら一方では、掲げましたスローガンの金メダル獲得を成し得なかったことは大きな反省点であり、また他種別のシンクロでは、持てる力をフルに発揮して健闘いたしましたが、デュエット、チームともに第5位となり、五輪連続メダル獲得が途切れしました。飛込ではメダル争いの場からは程遠く、また水球にいたっては宿願のアジアナンバーワンを実現することができず、ロンドン出場権が得られませんでした。初参加のOWSでは、経験および地力の不足を改めて痛感することになりました。これらの諸々の課題は、次のリオデジャネイロ・オリンピックへの大きな宿題であり目標となりました。

したがって、リオへの道に対しまして、引き続き“センターポールに日の丸を！”をスローガンに、「練習・練磨」とその成果となるべき「飛躍・発展」をキーワードに掲げて全力を尽くし、日々精進してゆく覚悟であります。

そのスタートとなる第1年目、平成25(2013)年度の事業は、国内では日本選手権競泳(4月)が長岡市での開催となり、国際大会ではユニバーシアード大会(7月・カザン)、世界選手権大会(7月・バルセロナ)、世界ジュニア選手権大会(8月・ドバイ)、東アジア大会(10月・天津)、などタイトなスケジュールが続きますが、ベストに対処する所存であります。一方、競技運営事業におきましては、「水球アジア選手権」(千葉)に加え、日本開催3度目となる「FINA競泳ワールドカップ」(東京)ならびに初の“FINA競泳オフィシャルセミナー”の東京開催などが、これまでの経験と実績により大きな成功を納め、高い評価を得ることができました。これらの成果が昨年のAASF総会(11月ドバイ)における「第10回アジア選手権大会2016」の開催地決定(東京)となり、さらに[東京オリンピック2020]の招致実現につながると期待されているところであります。

その他の諸事業におきましても、多くの関係者のご協力によりまして、概ね当初の計画通りに推移し新年度に入りつつありますが、『日本水泳連盟2020年に向けての構想』実現に向けての具体的展開をはじめ多くの課題が山積しております。引き続き総力を結集して取り組む所存ですが、加盟団体をはじめ関係各位には、なお一層のご理解とご支援をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

平成25(2013)年3月3日

会長 佐野和夫

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競 技 会	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
競	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	パンパシフィック選手権大会		◎		
	アジア選手権大会				○
	東アジア大会	○			
	短水路世界選手権大会		○		○
泳	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会		○		
	ジュニア世界選手権大会	○		○	
	豪州ジュニア遠征	○	○	○	○
	ジュニアパンパシフィック選手権大会		○		○
	ヨーロッパグランプリサーキット大会	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会	○			
	地域代表海外派遣 (シンガポール)	○	○	○	○
飛	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	FINAワールドカップ		○		○
	アジア選手権大会				○
	東アジア大会	○			
	ユースオリンピック大会		○		
込	グランプリ大会 (カナダ・アメリカ他)	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会	○		○	
	ジュニア世界選手権大会		○		○
	ユース海外派遣	○	○	○	○
水	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	アジア選手権大会		○		○
	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
球	アジアエージ選手権大会 (U17)	○		○	
	アジアジュニア選手権大会 (U19)		○		○
	ユース海外派遣 (U18)		○		○
	ジュニア世界選手権大会 (U20)	○		○	
シ ン ク ロ	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	アジア選手権大会				○
	東アジア大会	○			
	オリンピック大会予選会				○
	ワールドカップ大会		○		
	FINAワールドトロフィー	○	○	○	○
	ジュニア世界選手権大会		○		○
	アジアエージ選手権大会	○		○	
ジャーマン・フレンチオープン	○	○	○	○	
チェコ国際ジュニア	○	○	○	○	

I 事業の方針

1. 競技大会開催事業

日本選手権水泳競技大会（競泳・飛込・水球・シンクロ）をはじめとする各種全国大会を主催団体として企画・立案を行うとともに、競技会の予算管理並びに運営を行う。また、日本体育協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟等のスポーツ団体と共催で、全国大会の運営を行う。

競泳ワールドカップを始めとする国際大会を主管団体として成功に導くとともに、国際大会の積極的な招致活動を行っていく。

(1) 大会企画

- ①各種目競技会・会議の企画・立案
- ②各種目競技会の予算の管理
- ③国際関係特別事業の企画・立案
・競泳ワールドカップ
- ④主要競技会の日程・管理

(2) 競技運営

- ①各種目競技会日程および要項の作成
- ②主要競技会の主催・共催
- ③国際関係特別事業の開催
・競泳ワールドカップ
- ④医事委員会と連携した安全体制の整備

【競泳競技】

(a) 日本選手権水泳競技大会 兼第15回世界選手権大会代表選手選考会 兼第27回ユニバーシアード競技大会代表選手選考会	4月11日～14日	ダイエープロビ スフェニックス	新潟
(b) ジャパンオープン2013(50m)	5月24日～26日	さがみはら グリーン	神奈川
(c) 日本大学・中央大学対抗戦	6月29日	千葉国際	千葉
(d) 早稲田大学・慶応義塾大学対抗戦	6月30日	千葉国際	千葉
(e) 日本実業団水泳競技大会	8月3日・4日	尼崎スポー ツの森	兵庫
(f) 全国国公立大学選手権大会	8月8日・9日	鴨池公園	鹿児島
(g) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	長崎市民	長崎
(h) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	静岡県富士	静岡
(i) 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～30日	辰巳国際	東京
(j) 日本学生選手権水泳競技大会	9月6日～8日	広島市総合	広島
(k) 国民体育大会	9月13日～15日	辰巳国際	東京
(l) 日本選手権水泳競技大会(25m)	2月15日・16日	辰巳国際	東京
(m) 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京

【飛込競技】

(a) 室内選抜飛込競技大会	5月18日～19日	静岡県富士	静岡
(b) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	福岡県立	福岡

(c) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	県立水泳場	静岡
(d) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～29日	大阪プール	大阪
(e) 日本学生選手権大会	9月7日・8日	県総合公園	栃木
(f) 国民体育大会	9月13日～15日	辰巳国際	東京
(g) 日本選手権水泳競技大会	9月21日～23日	辰巳国際	東京
(h) 国際大会派遣選考会	2月8日・9日	辰巳国際	東京
【水球競技】			
(a) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	福岡県立	福岡
(b) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～30日	門真	大阪
(c) 日本学生選手権大会	9月6～8日	さがみはら グリーン	神奈川
(d) 国民体育大会	9月12～15日	都体育館	東京
(e) 日本選手権水泳競技大会	10月12～14日	柏崎アクア パーク	新潟
(f) 全日本ユース(U15)選手権大会	12月24日～27日	倉敷市屋内 他	岡山
(g) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季大会	3月26日～30日	千葉国際	千葉
【シンクロ競技】			
(a) 日本選手権水泳競技大会	5月2日～5日	浜松市総合	静岡
(b) 日本シンクロチャレンジカップ2013	8月1日～4日	横浜国際	神奈川
(c) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月27日～30日	日本ガイシ アリーナ	愛知
(d) 国民体育大会	9月11日	辰巳国際	東京
(e) 13～15歳ソロ・デュエット大会	1月12日	辰巳国際	東京
(f) シンクロナショナルトライアル2014	1月13日	辰巳国際	東京
【その他】			
(a) OWSジャパンオープン2013館山	7月14日	館山市北条 海岸	千葉
(b) 日本マスターズ大会	7月12日～15日	日本ガイシ アリーナ	愛知

2. 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備すると共に、社会的な基盤を整備し、その水準を維持することにより、水泳競技の普及発展を図るものとする。

(1) 競技者登録事業

① Web-SWMSYS のシステム改善

- (a) 競技者登録番号（7桁ID）の重複IDの集約
- (b) 記録管理システムからのエントリータイムの取込（リレー種目）

② モバイル携帯機器の活用拡大

- (a) 超速報システムの開発
- (b) 記録ランキングデータの活用

③ 他システムとの連携

- (a) Web-SWMSYS、記録管理、リザルトシステムの連携強化

(2) 競技規則制定事業

各種目の競技規則の整備・情報提供を実施

(3) 競技役員養成・登録事業

①競技役員及び審判員の研修会・講習会

(a) ブロック

(b) 各地域

②全国競技委員長会議の開催

③加盟団体競技担当者との電子メールによる情報交換システムの実施

④資格表の作成

(4) 競技記録公認・管理事業

①日本記録及び高校・中学・学童記録の公認

②F I N A への世界記録の申請

③ホームページ上の記録の管理

(5) 施設用具公認・推薦事業

①プール公認規則の整備・実施・情報提供

②プール施設の公認（事前・新規・再公認）

③施設用器具の公認・推薦

④施設用器具の研究開発・審査・推薦

(6) アンチ・ドーピング活動事業

国内競技会において検査を実施するとともに、普及・啓発活動を実施する。

3. 選手派遣事業

4. 選手強化事業

国際大会で活躍する選手を輩出するための強化事業を推進する。医事委員会や科学委員会との連携を深め、選手が国際大会で活躍できる環境を整備する。2020年オリンピック、次回2016年リオデジャネイロ・オリンピックに対する中長期的な戦略のもと、次世代を担う選手発掘・育成のための事業を推進していく。

(1) 競 泳

①国際競技会

(a) ヨーロッパグランプリサーキット

6月

ヨーロッパ

(b) セツテコリ杯

6月

イタリア

(c) ユニバーシアード

7月

ロシア・カザン

(d) 世界選手権

7月－8月

スペイン・バルセロナ

(e) 世界ジュニア選手権

8月

UAE・ドバイ

(f) アジアエージ選手権

未定

(g) 東アジア大会

10月

中国・天津

(h) ワールドカップ	10月－11月	中東・ヨーロッパ・アジア
(i) 選抜遠征	2月	オーストラリア
(j) ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール
②強化トレーニング合宿		
(a) 海外合宿		フラッグスタッフ・ゲーム
(b) 世界選手権合宿	6月	フランス・フォントロムー
(c) 世界選手権事前合宿	7月	スペイン・カレージャ
(d) 世界選手権強化合宿	4月～7月	JISS
(e) ユニバーシアード強化合宿	4月～7月	JISS
(f) 東アジア大会合宿	9月～10月	JISS
(g) エリート小学生合宿	4月・9月	JISS
(h) インターナショナル・JrB 強化合宿	5月	JISS
(i) リレー強化合宿	12月	JISS
(j) インターナショナル強化合宿	12月・2月	JISS
(k) ナショナル強化合宿	12月	鈴鹿・富士
(l) 地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県
(m) ジュニアエリートA 合宿	3月	JISS
③コーチ派遣・招聘		
(a) ASCA会議	9月	アメリカ
(b) ヨーロッパ視察	未定	ヨーロッパ
④企画・研修及び講習会		
(a) 全国強化コーチ会議	9月	東京
(b) ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京（クリニック）
(c) ブロック合宿担当者会議	10月	東京
(d) 強化コーチ巡回指導	12月	ブロック各地
(2) 飛 込		
①国際競技会		
(a) マレーシアエージ	4/12～14	マレーシア・スレバン
(b) FINA グランプリ CAN・AM 大会	4/29～5/15	カナダ～アメリカ
(c) FINA グランプリ RUS 大会	6/11～26	ロシア・カザン
(d) ユニバーシアード	7/ 5～11	ロシア・カザン
(e) 世界選手権	7/20～28	スペイン・マドリッド
(f) アジアエージ選手権	未定	
(g) 東アジア大会	10/7～9	中国・天津
②強化トレーニング		
(a) ナショナルチーム強化合宿		
・国内強化合宿		
・派遣直前合宿	4・6月	2回
・ナショナル強化合宿	2・3月	3回
(b) ナショナルスカットチーム強化合宿		

・国内強化合宿		
・派遣直前合宿	9月	1回
(c)ジュニア強化合宿		
・国内強化合宿		
・派遣直前合宿	4月	1回
・ジュニア強化合宿	11・12・2月	3回
・小学生研修合宿	11・1月	2回
③企画・研修及び講習会		
(a)強化コーチ会議	10月 他	数回
(b)ブロック代表会議	12月	1回
(c)審判員研修会		
・国内審判研修会	5月・6月 他	4回
(3) 水 球		
①チーム派遣		
(a)ユニバーシアード	ロシア・カザン	7/ 5～11
(b)男子ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド	ニュージーランド・ オークランド	5月7-15日
(c)女子ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド	ニュージーランド・ オークランド	5月7-15日
(d)男子ワールドリーグ・スーパーファイナル	未定	6月11-16日
(e)女子ワールドリーグ・スーパーファイナル	北京	6月3-8日
(f)男子世界ジュニア選手権	ハンガリー・ソンバ トヘイ	8月12-18日
(g)男子アジアエージ選手権	未定	未定
(h)女子アジアエージ選手権	未定	未定
②国際大会派遣選手選考会		
(a)ワールドリーグ		4月2日
(b)男子世界ジュニア選手権		7月2日
(c)代表候補トライアル	JISS	4月13-14日
③強化トレーニング		
(a)海外拠点強化合宿1次・2次(男子)	豪州	4月30-5月7日・ 12月24-30日
(b)国際競技会国内事前合宿	JISS他	4月・6月・8月
(c)ナショナルチーム強化合宿(男女)	JISS他	4月-6月・11月 -3月
(d)男女ジュニア・ユース研修(男女)	岡山・倉敷	12月27-30日
(e)海外選手派遣事業		
④チーム招聘・コーチ招聘		
(a)男子中国代表合同合宿	JISS	11月

(b)男子豪州選抜合同合宿	JISS	11月
(c)女子豪州選抜合同合宿	JISS	未定

⑤企画・研修及び講習会

(a)男女強化コーチ会議		10月
(b)全国コーチ会議・研修会		12月
(c)国際情報収集		
(d)日本代表ゲーム分析・評価事業		
(e)強化指定選手研修会		4月
(f)コーチ研修会		10月
(g)審判指導者合同研修会(国際トップ審判員の招聘)		10月
(h)ジュニア指導者研修会		12月

(4) シンクロ

①国際競技会

(a)ユニバーシアード	7月	ロシア・カザン
(b)世界水泳選手権	7月	スペイン・バルセロナ
(c)ワールドトロフィ	未定	未定
(d)アジアエージ選手権	未定	未定
(e)スイスオープン	6月	スイス
(f)ジャーマンオープン	3月	ドイツ・ボン
(g)フレンチオープン	3月	パリ・フランス
(h)クリスマスプライズプラハ	12月	チェコ・プラハ

②強化合宿

- (a)国際競技会派遣強化合宿(国内・海外)
- (b)ユース有望選手特別強化合宿、ユースエリート・ジャンパー育成特別強化合宿
- (c)全国選抜シニア・ジュニア中央強化合宿
- (d)ジュニアフィギュア強化合宿

③コーチ・役員 派遣・招聘

- (a)コーチ国際大会研修派遣
- (b)コーチ指導研修
- (c)FINA ワールドワイドジャッジ・コーチセミナー派遣
- (d)FINA ジャッジスクール派遣
- (e)海外コーチ招聘

④企画・研修及び講習会

- (a)強化会議
- (b)ナショナルコーチ・国際審判員会議
- (c)ナショナルコーチ研修会
- (d)全国コーチキャンプ、コーチ・ジャッジクリニック
- (e)国際情報収集、競技力分析

- (f)ユース発掘・育成・強化、巡回指導
- (g)競技者育成プログラムバジジテスト
- (h)ルール変更特別研修会

(5) 科学支援事業

- ①競泳のレース分析
 - (a)利用の促進
 - (b)第 89 回日本選手権大会 競泳競技におけるレース分析
 - (c)Japan Open 2013(50m)におけるレース分析
 - (d)FINA 競泳ワールドカップ東京 2013 におけるレース分析
 - (e)第 55 回日本選手権 競泳競技(25m)におけるレース分析
- ②教育・啓発活動
 - (a)2013 年度 日本水泳・水中運動学会年次大会への協力
 - (b)指導者資格付与制度への協力
- ③ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進
 - (a)競泳エリート小学生研修合宿における科学サポート
 - (b)競泳ジュニアナショナル強化合宿における科学サポート
 - (c)水球、飛込、シンクロにおけるジュニアの科学サポート

(6) 医事支援事業

- ①競技選手へのメディカルサポート活動
 - (a)選手のコンディショニングおよび障害・疾病の管理
 - (b)強化指定選手のメディカルチェック・障害予防プログラムの実践
 - (c)強化指定選手の医事相談活動及び調査研究活動
 - (d)メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化
- ②教育・啓発・研究活動
 - (a)日本水泳ドクター会議への協力
 - (b)日本水泳トレーナー会議への協力
 - (c)スポーツ医学・健康医学セミナーへの協力
 - (d)障害を予防するための研究・予防プログラムの普及

5. 普及事業

水泳及び水泳競技の更なる普及を目的とする諸事業を通じ、市民や水泳競技者に対してその技能向上の機会の提供をするとともに、生涯スポーツとしての水泳及び水泳競技の普及を図ることによって、スポーツを振興することを目的とする。

(1) 指導者養成登録事業

- ①競技力向上コーチ委員会
 - (a)資格審査会(年2回)の実施
 - (b)コーチ資格の新規登録・再登録・更新登録事業
 - (c)コーチ研修会事業(コーチ10会場・上級コーチ2会場)
 - (d)コーチ・上級コーチ養成講習会事業の推進

- (e)免除適応コース実施校の開拓
- (f)公認スポーツ指導者管理システムの活用

②地域指導者委員会

- (a)スポーツ指導者に関する事業
 - (ア)指導員・上級指導員新規養成事業の推進・加盟団体による指導員養成
 - (イ)ブロック別主管加盟団体による上級指導員の養成
 - (ウ)指導員・上級指導員資格取得者の登録及び有資格者の更新
 - (エ)基礎水泳指導員に関する事業
 - (オ)免除適応校専門科目検定
 - (カ)マスター指導員中央研修会の実施
 - (キ)安全対策の普及徹底
 - (ク)全国地域指導者（普及）委員長会議の開催
 - (ケ)各種依頼事業への協力
- (b)普及に関する研究事業
 - (ア)総合保障制度への加入推進
 - (イ)加盟団体各地区委員長会議・研修会の開催

③水泳教師委員会

- (a)水泳教師新規養成事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - (ア)適応コース講習検定会の実施（日本水泳連盟担当）
 - (イ)適応コース大学検定会の実施（日本水泳連盟担当）
適応コース認定校の新規開拓（日本水泳連盟担当）
 - (ウ)新規養成コース講習検定会の実施（日本スイミングクラブ協会担当）
 - (エ)「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- (b)水泳教師資格の新規・更新登録事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- (c)水泳教師資格更新研修会事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- (d)水泳教師在籍施設証明事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

(2) スポーツマスターズ事業

日本スポーツマスターズ水泳競技大会（北九州市）の運営を行う。

- ・関連団体と連携しながら、大会の更なる発展を目指す。
- ・年齢カテゴリーを国際水連の基準に準じて改訂する。

(3) 泳力検定事業

- ①検定受験者および合格者数の増加
- ②特別泳力検定会等の企画・立案・運営
- ③泳力検定優秀団体表彰

(4) オープンウォータースイミング事業

- ①競技会運営(安全重視の競技会運営)
 - (a)「東京・マラソンスイミング」の開催
 - (b)サーキットシリーズ各大会の支援協力および各地事前調査
- ②普及発展

(a) OWS スイムクリニック、OWS検定会の開催

(b) 公認 OWS 指導員の養成

③安全対策

(a) 各種安全マニュアルの整備

(b) OWS 安全装具の普及

(5) 日本泳法事業

①第58回日本泳法大会 8月24日(土)・25日(日) 京都アクアリーナ

②游士、練士、教士、範士の資格認定、游士研鑽会の開催

③第62回日本泳法研究会 平成26年3月22日(土)・23日(日)

・大分県臼杵市、大分市 課題「山内流」

(6) 機関誌発行事業

① 月刊水泳

②その他出版物

(7) その他の普及事業

① ぱちやぼ等に係るライセンス事業の推進

②水泳ビデオ・教本の発行

6. 組織運営のための共通事業

(1) 広報

①ホームページ

今必要とされる情報をタイムリーに、ホームページに掲載すること等を踏まえ、情報システム委員会と連携を推進する。

②広報・報道活動

競技運営委員会と連携し、主要競技会のマスコミ・報道関係のとりまとめを行う。

(2) その他

①地域会議の開催

②創立90周年記念事業への対応

II 組織運営及び財政基盤の確立

本連盟が昨年、策定した「ドリームプロジェクト～2020年に向けての構想」に基づいて、各専門委員会を中心に、事業の内容拡充を推進する。

各種事業の遂行にあたっては、加盟団体の協力を得て実施することはもとより、日本オリンピック委員会、日本体育協会等の関連団体とも連携を図り実施していく。

財政面においては、全体の支出を抑えながら、有効適切な事業の執行、予算管理を行う。なお、本連盟の組織運営及び財政の確立に際しては、関係者が一丸となって、各種コンプライアンスを徹底する。

Ⅲ 専門委員会の方針

(1) 競技事業

競技事業担当 安部 喜方

平成25年度も引き続き、競泳・飛込・水球・シンクロの日本選手権を中心に全国で開催される主要大会の企画・運営を行う。その際に、大会企画委員会と競技運営委員会の役割分担を明確にするとともに各大会の開催地、主管団体との連絡調整を密にして、企画、立案、運営、予算管理を行い、準備から大会終了までを統括する。日本選手権等への加盟団体からの役員派遣や主要大会への本連盟からの役員派遣を通して、全国で統一した大会運営を目指す。

また本年度4年目となる競泳ワールドカップを始めとする国際大会を主管団体として成功に導く。更に、国際大会の積極的な招致活動を行う。

①大会企画委員会

大会企画委員長 安部 喜方

強化事業との更なる連携を図り、2016年リオデジャネイロ・オリンピックに向けた新たなスタートの元年にふさわしい事業展開を行う。

②競技運営委員会

競技運営委員長 鈴木 浩二

本連盟主催大会では、各主要大会の開催地加盟団体や全国高等学校体育連盟・日本中学校体育連盟等のスポーツ団体と連絡調整を密にして、準備から大会終了まで統括し、全国で統一した大会運営を目指す。また、国内における競技規則の正しい適用と円滑な大会運営を担う競技役員の育成を図る。

③学生委員会

学生委員長 林 敏久

日本学生選手権大会を始めとする学生大会の成功に向けて全力で取り組む。また、全国代表者会議を開催（年4回）し、各支部間相互の連絡融和を図り、厳正な学生水泳競技精神の養成・向上をめざす。

(2) 競技力向上事業

競技力向上担当 上野 広治

ロンドンオリンピックの結果を踏まえて成果に対する評価と目標達成の反省に対する検証を行い、2020年東京オリンピック招致を前提に次回リオデジャネイロに対するミッション設定と将来への長期的なロードマップの作成にあたる。（JOC に各部門別のオリンピック特別対策強化戦略プラン2016・2020とメダルパスウェイ2016・2020を提出する）

強化状況を確認する意味も含めて、月一回の特別強化本部会議（2009年3月より開始）を実施して4部門の進捗状況を把握する。この会議は、オリンピックに向けた競技力向上を目的に強化事業及び派遣事業がより効果的に実施されるよう、各部門を支援し推進することを趣旨とする。7月に開催される世界選手権（スペイン・バルセロナ）で好成績を収められるように競技力向上事業を推進するとともに、2016年リオデジャネイロ、2020年オリンピックを見据えた中長期的な戦略のもと、各国際大会へ派遣を行う。

①競 泳

競泳委員長 上野 広治

ロンドンオリンピックでの結果は、100%の目標達成には至らなかったが、メダル獲得数では米国に次ぐ2位と決して悲観すべき内容ではなかった。また、11個のメダルを11名の選手が獲得し、うち9名が初のメダル獲得となるなど、メダリストの年齢バ

ランスも良く、世代交代も順調に進んでいる。しかしこの結果に甘んじることなく、今回のメダリスト及び次世代のメダリスト候補の強化育成を図り、目標達成のための更なる国際競技力の向上、またそれを継続するためのシステムの構築を目指す。長期的な目標を2020年オリンピックに向けて「58種目フルエントリー」、「29種目以上決勝進出」、「複数の金メダルおよび二桁のメダル獲得(自由形種目を含む)」というミッションを掲げた。一年目(平成25年度)の最主要大会を7月スペイン・バルセロナで開催される第15回世界選手権大会とし、4月の日本選手権で代表を選考する。2016年リオデジャネイロに向けてロンドンメダリストを含む新星“トビウオジャパン”が何処まで世界と戦えるか、1種目でも多く決勝進出を果たし複数のメダルと金メダル獲得に執念を燃やしてチャレンジしていきたい。

長期的な選手強化を含み第27回ユニバーシアード大会及び第6回東アジア大会には世界選手権の代表選手以外を派遣する。下期にはワールドカップ大会、選抜遠征(オーストラリア予定)を書類選考で派遣する。

各国際大会に向けての強化合宿に加え、4月の日本選手権終了後、ゴールデンウィーク期間にインターナショナル突破者にジュニアエリートBを加えて強化合宿を行う。また、継続して下期に実施しているインターナショナル合宿(年2回)はJISSとグアムで行う。

ジュニア強化(高校生及び中学生)に関しては、3月春季ジュニアオリンピックでアジアエージ選手権、5月に行われるジャパンオープンで第4回世界ジュニア選手権の代表を選考し派遣する方針である。ブロック代表国際大会派遣は、引き続きシンガポールに派遣し強化する。また、国内強化は中央と地方で行い、第36回ナショナル強化合宿(中央:12月12日~20日)とジュニアブロック合宿(10地域)、さらにエリート小学生合宿は年2回に増やし継続して合宿強化を実施する。

②飛 込

飛込委員長代理 上野 広治

ロンドンオリンピックには、一人でも多くの代表選手を送り、飛込初のメダル獲得を目標として選手強化に努めたが、女子高飛込の中川真依(金沢学院大学院)一人の派遣となった。予選では8位と健闘したが、準決勝敗退と決勝進出を果たせなかった。選考基準の問題やオリンピックに向けた強化体制などに課題を残す大会であった。

強豪国ではナショナルトレーニングセンターにピットやトランポリンを備えた室内練習場を併設し、中国人専属コーチを招聘して国家レベルで強化を進めている。我が国のコーチは職業を持ちながらのボランティアであり、チーム単位の強化にとどまり、高難易率化への対応を含め技術力は世界に通じるレベルには至っておらず、満足のいく結果に繋がっていない。

2016・2020年五輪に向けたスタートとなる平成25年度国内強化事業において、ピークを迎える年代にあたるジュニア選手への投資比重を高め、FINAあるいはアジア水連の主催する大会以外にも積極的なジュニア派遣を視野に進めていく。さらに2月開催の国際大会派遣代表選手選考大会で選ばれた世界選手権代表選手はカナダ・アメリカグランプリに、そしてユニバーシアード大会代表選手はユニバーシアードの会場で開催されるロシアグランプリへ派遣し、国際大会強化と国内事前合宿を経て本戦に挑む。5月開催の室内選抜飛込競技大会で選考する東アジア大会を含め、それぞれ別の選手団を編成し将来につながる若手の底上げを図りたい。

また24年度から始めた小学生合宿をさらに進化させ、早期から国際的に通用する選手育成を目指し、タレント性豊かなジュニア選手をJISSを核としたNTC競技別強化拠点に集め、エリートアカデミー制度を導入した強化体制の確立を目指したい。

③水 球

水球委員長 原 朗

水球競技において、世界大会へ出場するためのアジア大陸出場権は、オリンピックが大陸代表1カ国、世界水泳を含む世界大会へはアジア上位2カ国に与えられている。現在そのライバル国がカザフスタンと中国である。近年両国との対戦は僅差で試合を展開するものの、あと1点の壁を乗り越えられていない。そこで、昨年度から「水球日本チャレンジ10」施策の反省と経験を基に、2016年五輪予選時に日本代表中心選手として期待される年代「1991年生まれ以降(以下 Age91)」の選手に重点をおいて選手の育成・強化を進めている。一方ベテラン選手については、昨年、代表社会人選手を揃えた「ブルボンウォーターポロクラブ柏崎」が創部3年目で初の日本選手権を獲得した。以前は大学卒業後の社会人選手の強化は連盟が実施していたが、今後は所属強化が期待できることになった。また水球委員会では競技改革により、地域密着型のクラブを育成して国内競技会のレベルアップを図り質の高い競争環境を作ること検討している。代表選手選考方法については、学生選手の高いチャレンジ意識とベテラン選手に緊張感をもたせるため、主要国内競技会を選手選考の場として選手間の競争意識を持たせている。以上の取り組みを平成25年度も引き続き継続していく。

さて、平成25年度の男女代表の目標は「FINA 水球男子ワールドリーグ・アジア大洋州ラウンド大会」(ニュージーランド・オークランド)の上位2カ国に出場枠が付与される同大会のスーパーファイナル進出を目指す。男女重点強化年代である Age91については、「第27回ユニバーシアード大会」(ロシア・カザン)において男女ともに上位成績を目標にする。Age93男子は、「水球ジュニア世界選手権」(ハンガリー・ソンバトヘイ)においてベスト10を目標に大会に挑む。ベテラン代表選手については、海外強豪クラブに派遣して国際経験を積ませる。また、2020年五輪を見据えたジュニア選手の育成・強化については、Age95以降の男女ユース選手を「アジアエージ選手権」に派遣して男女ともにアジアチャンピオンを目指す。また「全日本ユース・桃太郎カップ大会」終了後に研修合宿を実施して、更なる強化育成を図る。

④シンクロ

シンクロ委員長 本間 三和子

平成25年度は、第27回ユニバーシアード競技大会(ロシア・カザン)および第15回世界水泳選手権(スペイン・バルセロナ)へ代表チームを派遣する。すでに平成24年12月、2013世界水泳代表選手選考会を終え、ロンドン五輪代表を中心に若手を加えた代表チームを結成、2016リオ五輪に向けた4年スパンでの強化を始動した。身体体積の高さ、強い脚、クリアさ・シャープさを重点課題として技術力(完遂度、同時性、正確性)強化、ならびにハイライト強化に取り組み、再び表彰台を狙う。下期は、芸術性を競うFINA ワールドトロフィ大会に代表チームを派遣し、表現力や創造性の強化を図る。

ジュニアは、AASF アジアエージ選手権に16-18歳代表チームと13-15歳個人種目代表選手を派遣する。フィギュアの高さとコントロール力、ルーティンのスピード・パワー・表現力の徹底強化を図り、優勝を狙う。

また、2020年オリンピックを見据えたユース年代(12~15歳)の強化育成を継続する。全国8ブロックより選抜された有望選手を対象に、基本トレーニングの徹底、および表現力、ダンス、トランポリンなど各所属では取り組むことが困難なトレーニングを中心としたユース有望選手合宿を実施する。有望選手からさらにエリート強化選手・ジャンパー強化選手を少人数選考し、エリート強化合宿および国際大会遠征を通して、次代の中心戦力になる選手を着実に育てていく。

選手強化と並行してトップレベルの指導者と審判員の育成も重要な柱である。ナショナルコーチ研修会、審判研修会を通して、専門知識や指導技術の実践研修を行い、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。また、欧州大会への研修派遣や映像分析を行い、国際情報の収集・分析、技術分析を推進する。さらに、今年は4年に一度のFINA ルール変更年にあたる。新ルールにいち早く対応し、研修会やクリニックを開催して全国に伝達し、次シーズンへ備える。

⑤科学委員会

科学委員長 野村 照夫

平成25年度は、関係諸委員会、JISS, JOC と一層連携を深め、競技力向上に関する科学支援事業を展開する。レース分析の利用促進を含め、国内競技会等で実施する。そして、教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会年次大会に協力する。その最新の科学的知見を広報委員会と連携し広く周知させることに努める。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供と、養成講習会の講師派遣等に協力する。その他、ジュニアの競技力向上に関する科学サポートを推進し、エリート小学生やジュニアナショナル選手の合宿等で科学情報の収集や提供に協力する。また、飛込、水球、シンクロの各委員会が行うジュニアに対する科学サポートに協力する。

⑥医事委員会

医事委員長 金岡 恒治

平成24年度は、計画通りに主要競技大会や強化合宿でのメディカルサポート活動を実施した。またメディカルスタッフ間の情報交換や研究報告活動を行った。

平成25年度は、関係諸委員会、JISS, JOC 等との良好な連携のもとに、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動及び研究報告活動を行う。具体的には、各種競技会における救護活動、国際競技会大会選手団に対するメディカルサポート、強化対象選手のメディカルチェック、傷害予防プログラムの考案と実践、JISS クリニック、リハビリテーション室における医事相談・トレーナー活動、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的としたメディカルサポートミーティング等を実施する。

教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会への講師派遣等の協力を行う。

研究成果報告として臨床スポーツ医学会等の学術集会において発表する。

(3) 指導者養成事業

指導者養成事業担当 設楽 義信

水泳競技の普及振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、日本体育協会と連携し指導者養成事業を実施する。

また、日本体育協会が昨年より実施した指導者資格再登録および公認スポーツ指導者管理システムの活用を3委員会が足並みを揃えしっかりと取り組む。

①競技力向上コーチ委員会

競技力向上コーチ委員長 設楽 義信

研修会・養成講習会の会場手配も完了し新年度を迎える。今後も世界で戦えるトップアスリート育成を目指し、コーチへの最新知識の供給に努める。また、四年目を迎えた免除適応コース実施校の新規開拓も併せて行う。

②地域指導者委員会

地域指導者委員長 宮本 憲二

上級指導員の講習・検定及び上級指導員マスター認定者研修を新年度も実施する。ま

た、三年前にスタートしたアスリート対象基礎水泳指導員免除申請業務も併せて行っていく。今後も加盟団体と連携をとりながら免除校検定試験、養成・更新登録業務等をしつかりと推進する。

③水泳教師委員会

水泳教師委員会 澁谷 俊一

スイミングクラブ等の商業施設で会員(顧客)が満足できるような指導者育成を目指した専門的知識・技能等、レベルやニーズに合わせた指導力を身につけるための養成・研修会事業を推進する。今後も一般社団法人日本スイミングクラブ協会と連携し、安心して指導が受けられる施設の拡充を目指す。

(4) 総務事業

総務事業担当 坂元 要

組織運営の根幹の部分である総務部門においては、定款や諸規程に基づいた組織運営を心がけ、円滑な運営を行う。また加盟団体をはじめ各スポーツ団体と相互協力を行い、組織の一層の充実と発展を図る。

①広報委員会

広報委員長 村山 よしみ

月刊水泳に関しては、本連盟の活動を事業記録として、タイムリーに掲載し、見やすい、分かりやすい機関誌として新企画を実施する。また、各競技がバランスよく掲載されるように、各競技担当者と連携をとりながら製作する。今後、月刊水泳発行に関しての予算面においては、コスト等の見直しを常に行い、適正な経費管理を行う。

ホームページの事業に関しては、今必要とされる情報をタイムリーに、ホームページに掲載すること等を踏まえ、情報システム委員会と連携を取り進める。

広報・報道活動に関しては、競技運営委員会と連携し主要競技会の報道関係のまとめを行う。

②施設用具委員会

施設用具委員長 國富 進

プール公認規則の水泳関係者、加盟団体担当者及び公認測量者への周知徹底を図り、規則関連資料としてプールを設計する際に必要な事項を整理(指針)する。

ホームページの「Q&A欄」を充実させ情報発信・情報提供を行う。

また、総務委員会と連携し、プール関連企業の施設用器具の審査・推薦を行う。

③情報システム委員会

情報システム委員長 須永 孝

競技者登録システム(SWMSYS)の更なる機能改善と記録管理。記録ランキングシステムと連携し、モバイル機器(携帯・スマホ)への対応拡大を図る。各委員会と連携しホームページの再構築に向けて取り組む。

④総務委員会

総務委員長 坂元 要

公益法人制度改革に伴い、本連盟は昨年3月30日に公益財団法人に移行した。組織運営の中核としての役割を担い、本連盟の各業務の充実を図るため、各委員会との連絡調整を密接に行い、諸事業の運営が円滑に推進されるよう支援して行く。

また、2014年11月22日(土)開催の創立90周年記念事業に向けて、準備体制を構築する。

(5) 生涯スポーツ・普及事業 生涯スポーツ・普及事業担当 鈴木 大地
生涯スポーツ事業は『日本泳法』、『マスターズ水泳』、『泳力検定』、『オープンウォータースイミング』の4つの部門を統括し、更なる水泳競技の普及発展並びに、水泳愛好者に対して技能力向上の機会を提供する事業を行う。

①生涯スポーツ委員会 生涯スポーツ委員長 鈴木 大地
泳力検定事業では、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門として位置づけ、水泳技能に係るスポーツ検定事業を推進する。
マスターズ水泳では関連団体と連携しながら、日本スポーツマスターズ大会の更なる発展を目指す。本年開催の北九州大会から年齢カテゴリーを国際水連の基準に準じて改訂する。

②日本泳法委員会 日本泳法委員長 八木沼 正彦
日本泳法大会および日本泳法研究会を通じ、各流派各泳法の奥義を極め、次世代への普及および伝承を図る。

③OWS委員会 OWS委員長 鷲見 全弘
オープンウォータースイミング競技の更なる発展と競技力向上を両立させて事業を実施していく。
(a)競技会運営(安全重視の競技会運営)
(b)普及発展(クリニック・検定会の実施)
(c)競技力向上
(d)安全対策

(6) 財務一般会計 財務担当 坂元 要
・予算の作成と執行管理
・中長期財務対策

(7) 特別委員会

① 財務委員会	財務委員長	堀 正美
免税募金事業の推進		
② 競技者資格審査委員会	競技者資格審査委員長	青木 剛
競技者資格の審査		
③ 選手選考委員会	選手選考委員長	佐野 和夫
国際競技会派遣日本代表選手団の選考		
④ 指導者養成委員会	指導者養成委員長	設楽 義信
指導者養成制度の確立と資格認定審査		
⑤ 国際委員会 (F I N A ・ A A S F)	国際委員長	緒方 茂生
国際関係の情報共有推進と国際競技会の招致計画		
⑥ アンチ・ドーピング委員会	アンチ・ドーピング委員長	泉 正文
アンチ・ドーピング活動の計画と推進		
⑦ スポーツ環境委員会	スポーツ環境委員長	佐野 和夫

- スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進
- ⑧ 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導

倫理委員長 青木 剛